

# カッターナイフのような替え刃式石器 ... 細石刃<sup>1</sup>

国際理解

第1章 十勝の平野が  
川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展  
そして未来へ

用語

さくいん



(上) 曉遺跡(帯広市)で見つかった「細石刃」の一部。  
(写真: 帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵)

(右) 細石刃は、木や骨などのじくにはめこんで、ヤリ先やナイフに使った。  
(帯広百年記念館: 3)

とくに寒くなる2万年前ころになると、知らない人にとってはただの石のかけらが、黒いガラスのかけらのような、小さな石器が作られるようになりました。

はばが数mm~1cmくらい、長さが数cmで、カッターナイフの刃のような形をしています。

この石器は「細石刃<sup>1</sup>」とよばれています。

細石刃は、角や骨で作られたじくに、いくつもうめこむことで、ヤリの先や、ナイフとして使われました。

もし、どれかの細石刃が欠けたりこわれたりしても、そこだけを替え刃のようにつけかえることができる、すぐれものでした。

細石刃は、日本列島・シベリア・モンゴル・中国北部・カムチャツカ半島など、東アジアの広い範囲で使われました(大陸では3万年以上前から)。



約1万6千年前の曉遺跡(帯広市)の想像図。右おくが十勝川。  
(想像図: 帯広百年記念館蔵)

## 川ぞいの高台で作られた細石刃

およそ1万6千年前、今の帯広市西8条南12丁目、聖公会幼稚園周辺の高台<sup>2</sup>では、細石刃がさかんに作られていました(曉遺跡)。

この高台と鈴蘭公園(音更町)の高台の間は、当時、十勝川の氾濫原<sup>3</sup>でした。十勝川とその支流が、曲がりくねり何本にも枝分かれをして流れていたのです。

曉遺跡のすぐ下にも、十勝川の支流が流れていました。  
(氾濫原 p46)

## 材料には白滝の黒曜石がよく使われた

細石刃を作るためには、黒曜石の中でも、とくに質の良いものが使われていました。

大型で、ていねいな加工をするものは、白滝(遠軽町)産の黒曜石から作られました。ほかの石器には、十勝三股(上土幌町)産や置戸産の黒曜石も使われていました。(十勝三股の黒曜石 p33)

白滝は十勝から見て北にあり、曉遺跡から直線距離で100km以上あります。途中に、石狩山地もあります。

当時はもちろん、今のような道路はなく、基本的には川や川ぞいを「道」として使っていました。

また、上土幌町の旧石器時代の遺跡からも、白滝産の黒曜石でできた石器が見つかっています。地図を広げて、どんなルートを使っていたか考えてみましょう。



白滝(遠軽町)にある黒曜石の巨大な岩。白滝は、曉遺跡(帯広市)から北へ100km以上行ったところにある。  
(写真: 北澤 実氏)

1 細石刃(さいせきじん): 細石刃文化は、大陸から日本列島に伝わった。伝わるルートとしては、当時大陸と陸続きだったサハリン・北海道から津軽海峡をこえて本州に伝わるルートと、朝鮮半島から海をわたって九州や本州(四国をふくめて一つの島)に伝

わるルートとがある。千歳市柏台 遺跡では恵庭火灰よりの下の地層で、細石刃石器群が確認された。たき火のあとの炭素で測定したところ、約2万年前の、国内最古の細石刃石器群であることがわかった。

さいせきじん 細石刃を作る「工場」... おびひろし 帯広市の あかつきいせき 暁遺跡

「暁遺跡」(帯広市西8・9条南12・13丁目)では、旧石器時代の遺跡と縄文時代の遺跡(p90)が見つかっています。

遺跡の東部分が、およそ1万6千年前の旧石器時代の遺跡で、細石刃が8,000点以上、細石刃核(下参照)が50点見つかり、ほかに削器(切ったりけずったりするための道具)や彫器(彫刻刀のような刃をもつ道具)など、多くの石器が出てきました。

これほどの細石刃が見つかったということから、この場所は、細石刃を作るための場所、いわば「工場」だったと考えられています。

暁遺跡の石器は、帯広百年記念館などで見ることができます。

旧石器時代だけでなく、縄文時代の遺跡も見ついているということは、この場所が時をこえて「いい場所」だということなのかも知れません。

細石刃が見つかる遺跡としては、上土幌町の糠平湖岸遺跡、帯広市の南町2遺跡・上似平遺跡・空港南A遺跡などがあります。



暁遺跡(帯広市)の発掘。昭和59年(1984)。

(写真:帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵)



暁遺跡の位置。  
帯広市西8・9条南12・13丁目。



暁遺跡のある高台。約1万6千年前に段丘となった「上札内b面」(2)(p54)。

さいせきじん 細石刃の作り方... 観察のポイント



石のかたまりを打ち欠いて整形する。長い平らな面を作る(細石刃核)。



平らな面に角や骨をおし当て、細石刃をはぎ取る。  
できた細石刃は、骨や角でできたじくに、いくつもうめこんで使う。

(『120年より前の帯広』、『十勝川の川舟文化史 濤標』より、改変)

細石刃の作り方は、次の通りです(石器の作り方p75)。

石のかたまりを打ち欠き、形を整える  
かたほうの長いふちを打ちぬいて、平らな面をつくる  
角や骨を平らな面におし当てて、細石刃をはぎとる

石器を作るとき、作りやすく形を整えた石を「石核」といい、その作業でできる、細石刃を作るための石核は「細石刃核」といいます。

ハンターたちは、できた細石刃核を持ち運び、狩りで細石刃がこわれると、その場で作って取りかえたようです。



細石刃核。ハンターたちはこれを持ち運んで石器を作った。(帯広百年記念館: 3)

2 聖公会幼稚園のある高台(せいこうかいようちえんのあるたかだい): この場所に段差ができ高台(段丘面: 上札内 b面)となったのは、約1万6千年前のこと(p54)。若葉の森遺跡や川西C遺跡に人がいた2万年以上前には高台ではなく、ここも十

勝川の氾濫原(はんらんげん)だった。  
3 帯広百年記念館(おびひろひやくねんきねんかん): 帯広市緑ヶ丘2番地 電話 0155-24-5352 月曜日休館